

外国人患者受入れ体制整備
地域連携フォーラム
静岡県国際交流協会 医療通訳紹介事業
について

2022年2月17日
公益財団法人 静岡県国際交流協会 (SIR)
総務課長 加山 勤子
info@sir.or.jp

都道府県別外国人住民数

	都道府県	平成30年	令和元年	令和2年
1	東京都	567,789	593,458	560,180
2	愛知県	260,952	281,153	273,784
3	大阪府	239,113	255,894	253,814
4	神奈川県	218,946	235,233	232,321
5	埼玉県	180,762	196,043	198,235
6	千葉県	156,058	167,512	169,833
7	兵庫県	110,005	115,681	114,806
8	静岡県	92,459	100,148	99,629
9	福岡県	77,044	83,468	81,072
10	茨城県	66,321	71,125	72,287
	全体	2,731,093	2,933,137	2,887,116

・東京都が56万7502人（全国の19%）と最も多い。

・上位10都府県の外国人住民数合計は2,055,961人で、全国の約71.2%を占める。

・コロナの影響があり、前年から減少傾向、日本全体では前年から46,021人減少している。静岡県は、519人の減とほぼ横ばい。

出典：出入国在留管理庁「在留外国人統計」（R2.12月末現在）

公益財団法人 静岡県国際交流協会（SIR）

静岡県の人々（ひと）と世界の人々（ヒト）との交流を深める
「ひとヒト県民国際交流」をスローガンに、民間国際交流団体の
中核組織として、平成元年11月1日に財団法人静岡県国際交流協会が
設立されました。

また、平成24年4月1日に公益財団法人となり、民間による公益の増進を
目的として、2本の公益目的事業を皆さんとともに実施しています。

- 1. 国際理解・交流推進事業**
- 2. 多文化共生推進事業**

医療分野で自治体や医療機関との連携して取り組んでいること (医療通訳の派遣)

医療機関等からの依頼に基づき、医療に関する基礎知識や通訳技術など、一定レベル以上の知識・スキルを持った医療通訳者を紹介します。

- ▶ 対応言語：ポルトガル語、スペイン語、中国語、フィリピン語、英語
※ その他言語については、個別に相談
- ▶ 対応時間：原則として、医療機関等の診療時間内
※ 概ね午前9時から午後5時まで
- ▶ 対象通訳事項：日常的な診療・検査に対する通訳
- ▶ 利用料： 通訳料 1回 3,000 円（2時間まで）
※ 2時間を超えた場合は、1時間毎に 1,500 円を加算
※ 交通費は実費相当額

令和2年度医療通訳紹介件数

言語別	令和2年度（31/元年度）	
ポルトガル語	1人	(4人)
スペイン語	6人	(15人)
中国語	1人	(18人)
フィリピン語	5人	(5人)
ネパール語	2人	(0人)
ベトナム語	0人	(1人)
合計	15人	(43人)

利用同意医療機関 21病院

沼津市立病院
順天堂大学静岡病院
有隣興生会東部病院
あらたじまあいここクリニック
共立蒲原総合病院
静岡市立清水病院
清水厚生病院
静岡県立総合病院
静岡済生会総合病院
静岡県立こども病院
静岡徳洲会病院
静岡てんかん・神経医療センター
静岡市立静岡病院
静岡赤十字病院
静岡県立こころの医療センター
市立御前崎総合病院
静岡県西部保健所
豊田えいせい病院
総合病院聖隷浜松病院
浜松労災病院
浜松医科大学医学部付属病院

医療分野で自治体や医療機関との連携として取り組んでいること (医療通訳講座やフォローアップ研修の開催)

令和3年度 医療通訳者専門（フォローアップ）講座

(ポルトガル語、スペイン語、中国語フィリピン語、ベトナム語)

▶ 医療通訳に必要な知識 (新型コロナウイルス感染症について)

外国人の診療における注意点

(外国人患者の特徴、医師から考える医療通訳の注意点)

医療通訳の倫理・心得

(守秘義務、プライバシーの尊重、中立性・客観性、正確性
専門性の維持・向上、信頼関係の構築等)

▶ 通訳に必要な技術

医療現場を想定した言語別ロールプレイ

(現在の地域連携の効果や意義、感じている課題、
今後の展望や期待)

外国人患者の課題

- ▶ 市販の薬で一時しのぎ、悪化してから病院へかかる傾向 ⇒ 重症化
- ▶ 在留資格更新条件などから、社会保険未加入などのケースもある。⇒ 未払い
- ▶ 派遣や請負での雇用形態であるため、不安定な生活を強いられる。夜勤など重労働により体調を崩している人も多い。⇒貧困から生活保護へ
- ▶ 病院の医療通訳がないことが多く、予約も困難な状況。外国人患者が通訳者を同行することを求められるケースが多い。
⇒通訳の確保が困難、費用負担も大きい。

(現在の地域連携の効果や意義、感じている課題、
今後の展望や期待)

今後の展望や期待

多様な医療通訳支援

➤ 遠隔や対面の医療通訳支援、病院内
での通訳対応、わかりやすい日本語の導入等
通訳の依頼や通訳費の負担について

➤ 病院、外国人患者、関係機関との連携
対面通訳介入の効果（リピーターの増加）

➤ 複数回の利用につながっている。

➤ 医師、看護師からの要望の増加

医療従事者も外国人患者も安心して医療が受けられる環境
づくり